

令和3年度壮行会 激励のあいさつ

いよいよ明日、あさつと中体連夏季総体のブロック大会を迎えます。また、7月28日・29日は県大会、また、吹奏楽コンクールも28日に実施されます。天候面で雨の心配はなさそうですが、コロナ対策とともに熱中症対策にも気を配らなければなりません。対策を徹底しながら、ベストのコンディションで当日を迎えられるようにしてほしいと思います。

さて、皆さんは、明日からの大会に向けて、それぞれ目標を決めて、練習に励んでくれたことと思います。先生の方から2つのことをお願いしたいと思います。

一つは、「感謝の心」、もう一つは、「あすこそは」です。

一つ目の「感謝の心」は、コロナ禍にあって無事に大会を迎えられることへの感謝もありますが、ここに至るまで実にたくさんの方が皆さんを支えていただいています。そうした方々への感謝です。

まず、お家の方ですが、皆さんの最大の応援者として、試合やコンクールはもちろん、日常の部活動でも物心両面にわたり、支えてくださいました。お弁当の用意や送り迎え、うまくいかないときは悩みを聞いてもらったりアドバイスをいただいたりしたと思います。

次に、ともに喜びや苦しみを分かち合ってきたチームの仲間。レギュラーの人もそうでない人も、それぞれが大切なチームの仲間。仲間がいたからこそここまで頑張ることができたと思います。

そして、顧問の先生。忙しい時間を割いて、休みの日もいとわず、ご指導いただきました。そのおかげで、皆さんは着実に上達することができました。

最後に、地域の方々。皆さんはご存じないかもしれませんが、中体連やコンクールでのバス輸送の費用のほとんどは、地域の方々からの寄付金でまかっています。年間100万円以上のお金をいただいています。また、PTAの皆さんに一軒一軒お金を集めに回っていただいています。

このように、皆さんは多くの人たちの願いや思い、支援を受けて、この大会に臨むということを忘れないでください。そして、そのことを素直に感謝できる人であってほしいと思います。

次に二つ目の「あすこそは」です。学校も試合やコンクール会場も同じです。日頃、皆さんは「あすこそは」の実践を頑張ってくれていますが、大会では、本当の意味での「あすこそは」の力がためられていると思います。

先生は、試合やコンクールは勝ち負けだけがすべてではないと思っています。たとえ勝ったとしても、態度の悪いチームは、まわりから祝福もされず、すごいとは思いません。たとえ負けても、挨拶が気持ちよく、笑顔が素敵で、礼儀正しく、また会場のごみ拾いなどにも率先して取り組めるチームは、すばらしいと思います。

ごみ拾いにかかわって、一枚の写真を見ていただきたいと思います。この写真は何かわかりますか。

これは、今から4年前の夏の全国高校野球選手権大会、つまり夏の甲子園で実際にあった出来事なのですが、3回戦で仙台育英高校と大阪桐蔭高校が対戦しました。双方とも強豪校ですが、0対1で迎えた仙台育英高校9回裏の攻撃、2アウトランナー1、2塁の場面です。バッターは若山という選手でした。打った打球は平凡なショートゴロ。ショートはなんなくさばいて一塁へ投げました。完全にアウトのタイミングで、試合終了となるはずでした。若山選手は写真のように



頭からヘッドスライディングをしました。アウトだと思って顔を上げると、審判の判定はなんと「セーフ」だったんです。なぜか？実は、一塁手の足がベースを踏めていなかったんです。大阪桐蔭という鍛え抜かれたチームの一塁手がなんとベースを踏めていなかったんです。結局、ツーアウト満塁となり、次のバッターがレフト前にヒットを打って、仙台育英は劇的な逆転サヨナラ勝ちを収めたんです。

さて、先ほどの若山選手は、実はチームメイトから「ラッキーボーイ、持ってる男」と呼ばれていたんです。その若山選手、試合後のインタビューで幸運を呼ぶ秘訣を問われ、こう答えました。「仙台育英は、ごみを運だと思って拾うんです。「運拾い」と言っています。今朝も宿舎の前にお菓子のゴミが落ちていたので拾いました。それが良かったのかもしれませんが。」この話は以上ですが、皆さんはこの話を聞いてどう思いますか。

それでは、先生からの激励の言葉は以上です。高月中の名を背負って、頑張ってください。どうぞ、悔いのないように、そして堂々とプレーや演奏をしてきてください。健闘を祈っています。